



世界でいちばん大きい魚、小さい魚は何なの

いちばん大きい魚は、体長およそ13メートル

海にすむ最大の魚で記録に残っているものは、1949年インド洋でつかまえたジンベイザメで、体長12.65メートル、最大どう周り7メートル、体重15~21トンぐらいだったとされるものです。ホオジロザメ（人食いザメともよばれる）も体長10メートルぐらいあるものが報告されていますが、正確な記録はありません。

5000万年前ごろはたくさんいたけれど、もう絶めつしてしまったカルカドロン・メガドロンとよばれるサメは、化石の研究から、最大体長が13.7メートルぐらいあったとされています。

川や湖にいるもので最大なのは、100年以上前、ロシアでつかまったヨーロッパナマズの、体長4.6メートル、体重340キログラムという報告が残っています。

今いるものでは、東南アジアの川にいるパンガシウス、サニトウオングセとよばれる2種類のナマズは、どちらも体長3メートル、体重が300キログラムもあるそうです。

いちばん小さい魚は体長1センチメートル以下

海でいちばん小さい魚は、インド洋のチャーゴス列島にいるハゼの仲間のトリマトム・ナヌスで、体長が9ミリメートルぐらいです。

川や湖でいちばん小さい魚は、フィリピンのルソン島にいるハゼの仲間で、パンダカ・ピュグメアといわれ、体長7.5~9.9ミリメートル、体重は4~5ミリグラムです。この魚を200~250匹き集めて、やっと1円玉1個の重さになるといいう、小さい魚なのです。（監修・安部 義孝）

